



大栃から文代峠までの見どころを  
広報担当者が昔の旅姿で歩きました。

# 大栃から 文代峠へ

◆大栃から徒歩約30分  
塩峰公士方神社



むかし別府の神主・惣之市が、東川の石船神社(現在の香南市香我美町)から、一方のかごに塩を、もう一方に御神体を入れてこの地に来たところ、オオクが折れ、塩が転がり落ちていったといわれています。  
そこで、塩の転がり落ちていった地を塩の村と呼ぶようになり、またもう一方の御神体は動かなくなりそこに鎮座しました。これが、塩峰公士方神社であるといわれています。

◆大栃から徒歩約2.5時間  
◆拓金比羅  
◆拓馬頭観音



金比羅坂を登りつめたところに静かにたたずむ馬頭観音。人々はここで荷をおろし、眺めの良い金比羅さんで一休みしていました。当時はお店もありにぎやかで、相撲場などもあったそうです。

◆大栃から徒歩約3.5時間  
◆追剥ぎ峠



人里から遠く離れているため、助けを呼んでも誰にも聞こえず、追剥ぎが出発し人々を恐れさせた場所です。「おい、荷物をよこさんか!」と、迫真の演技で当時を再現しましょう。

◆大栃から徒歩3.8時間  
◆金比羅跡



今では建物はありませんが、石垣の上には崩れたほころの屋根に彫られた「金」の文字が。昔は往来する人たちが旅の安全を祈りに立ち寄ってお参りしていた金比羅さんなのです。

◆大栃から徒歩3.8時間  
◆見返平



ちょっと振り返ってみたくなるほど美しい「女性」ではなく「景色」が広がるところです。このおじさん、勘違い??

◆大栃から徒歩5.7時間  
◆文代峠



「文四郎」という人が築いたといわれる文代峠。今は香南市と香美市の境界となっています。昔は香美市香北町、香南市香我美町方面に通じる交差点で、住んでいる人も多く、宿場も店屋もあり、「塩」の拠点として大変栄えたところです。

- WC トイレ
- 休息所
- P 駐車場
- スタンプ



「塩の道」には、至る所にお地蔵さんがおまつり、道行く人の心の友になり、安全を助けてくれています。

それだけの地区にある馬頭観音。馬の無病息災を願い、またお参りをしてこまめに馬の恩福を祈った。人々が長い道中に寝しやすがるための懸けの観音様もあって、いちいち見てよかった。

背負い籠  
背中にはカゴを背負い、何でも入れられる。



庄谷相から拓小学校までの長い道のりを毎日歩いて通った日々を、ふらふらと歩いたことはなかつた。道端の花を羨しみながら歩くのが大好きだった。

もんぺ  
「今日は母のもんぺを借りてきました」と小松さん。農作業をするには、この服装が一番機能的。

昔ながらの虫除け  
「かっこ」というもの。木綿で灰を包み油をつける。それを藁でくるみ、縄で縛る。先に火をつけると少しずつ燃える。

手甲(てっこう、てごう)



わらじ  
草鞋(わらじ)は、稲藁で作られる日本の伝統的な履物の一つ。草鞋は前部から長い「緒(お)」が出ており、これを側面の「乳(ち)」と呼ばれる小さな輪およびかかとから出る「かえし」と呼ばれる長い輪に通して足首に巻き、足の後部(アキレス腱)もしくは外側で縛るものです。この形状から、草履に比べ足に密着するため、山歩きや長距離の歩行の際に非常に歩きやすいものとなっており、昔の旅の必需品でした。

かます  
藁むしろを二つ折りにして縁を縫い綴じた袋です。以前は農閑期に藁で「むしろ」を編み、それを藁縄でつづつて「かます」に仕上げました。湿気を吸収し通気性が良く、物の保存には適していたので、穀類、塩、肥料などの貯蔵や運搬に用いられました。塩を入れた「かます」は約40キロもあり、背中の汗で塩が溶け出すこともあったとか。

股引(ももひき)  
脚絆(きやはん)

「塩の道」を歩くなら、ここのでゆつくり休んでいってや  
◆大栃から徒歩約3.4時間  
◆黒見休憩所



「いらっしゃいませ!こちらが黒見の休憩所です!」  
「塩の道」ができた当初は休めるところがまったくなかったため、この山を持つ山主に交渉して、3千坪の天水田跡地を購入。公文さんと仲間が整備して手作りした休憩所には、たくさんの種類の植物が植えられています。



竹弁当り  
竹弁当り(たけべん)は、竹の葉を乾燥させたもので、お粥や炊き込みご飯などに使われます。竹の葉の香りがいいので、お粥や炊き込みご飯などに使われます。竹の葉の香りがいいので、お粥や炊き込みご飯などに使われます。

おばやんの竹弁当り  
肉、魚を使わないこだわりの山菜料理で注文は完全予約制とのこと。問い合わせは、土佐塩の道保存会公文まで。  
☎090-5274-0025

## 「塩の道」周辺に咲く夏の花たち

